

人工林の公益的機能回復に取り組んだ事例

事業名 環境貢献林整備事業

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・町内に森林を所有されている方からの要望や、町広報誌による施業箇所の募集を行い、人工林について整備を実施することとした。

今後の展開

・近年の集中豪雨の状況に鑑み、今後も、長年手入れのされていない人工林の整備を進め、森林の持つ公益的機能の発揮を目指す。

取組の内容

- ・事業主体: 世羅郡森林組合
- ・実施場所: 町内31箇所
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 20.20ha
- ・業務金額: 11,825,300円
- ・業務期間: 令和6年5月28日
～令和7年3月25日

取組後の感想

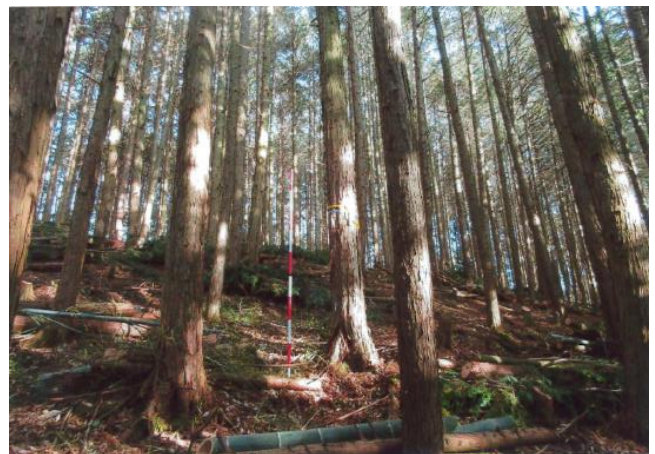
【良かった点】

・町広報誌へ施業箇所の募集を掲載したことにより、事業要望だけではなく、自らが所有する山林について関心を持たれた方からの問い合わせが多くあった。

【整備前】



【整備後】



荒れた里山の景観保全に取り組んだ事例

事業名 里山林整備事業

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・松枯れ被害が多く、尚且つ事業効果を見込める、世羅町内の主要道路である国道184号と県道56号線が交わる交差点付近(北西)の里山林の整備について、補助を行った。

今後の展開

・町内では依然として松枯れ被害が多いため、特に主要道路を要件としながら事業の申請を募り、健全な里山林へと誘導していく。

取組の内容

- ・事業主体:大見振興協議会
- ・実施場所:世羅町大字安田地区
- ・業務量(森林整備):3.14ha 94m3
- ・事業量(調査):3.14ha
- ・業務金額:7,197,000円
- ・業務期間:令和6年12月11日
～令和7年3月26日

取組後の感想

【良かった点】

・景観保全だけでなく、鳥獣の棲み処となりにくい山へと整備することができた。

【整備前】



【整備後】



歴史的文化財と森林が織りなす景観の保全事例

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施地区は歴史的文化財が多く存在する森林であり、林内には、「いこいの森」や「遊歩道」・「展望台」などが整備され、多くの人が訪れる場所となっている。しかし近年では、小径木が密生し、林内が薄暗くなっている。そこで、甲山史跡・名所伝承保全会が計画を作成し、景観の保全に努め、より多くの人が自然に親しめる環境を整えるため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体: 甲山史跡・名所伝承保全会
- ・実施場所: 世羅町大字甲山地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 0.51ha
- ・業務金額: 1,030,000円
- ・業務期間: 平成30年度～令和6年度

【植樹体験】



今後の展開

- ・引き続き、保全会が中心となり、保全活動や森林体験活動を実施していく。
- ・小学生卒業記念植樹を実施し、自然と触れ合う機会を提供していく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・林内に設置されている休憩小屋周辺の森林整備を実施したことにより、林内に日が差し込み、山へ入りやすい環境を整えることができた。
- ・遊歩道を補修したことで、登山者の安全に務めた。

【整備前】



【整備後】



希少植物が自生する山林の保全事例

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施地は町花であるスズランが自生する森林であり、林内には、登山道が整備され、多くの人が訪れる場所となっている。しかし近年では、倒木の発生や登山道の洗堀などが見受けられる。そこで、君影会が計画を作成し、希少植物の保護に努め、保護活動を通じた地域づくりの活動と情報の発信を図るため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体: 君影会
- ・実施場所: 世羅町大字青近地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 0.77ha 看板設置1基
- ・業務金額: 1,560,000円
- ・業務期間: 令和2年度～令和6年度

【スズランの自生地】



今後の展開

- ・引き続き、君影会が中心となり、保全活動や森林体験活動を実施していく。
- ・登山道沿いの森林整備を進め、日が差し込む明るい山へと変えていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・急斜面の枯損木整備を行ったことで、山林内に光が入るようになった。
- ・看板を設置したことで事業のPRを行うことができた。

【看板設置】



【整備後】



歴史的建造物を取り囲む社叢の保全事例

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施地区は町史跡に指定される茶臼城跡地周辺の森林であり、林内には、鎌倉時代からの歴史的建造物が多数存在する。しかし近年では、竹林が繁茂し、林内が日中でも薄暗い状態となっている。そこで、茶臼山保全会が計画を作成し、地域のシンボリック存在の茶臼山を整備し、地域の活性化を図るため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体: 茶臼山保全会
- ・実施場所: 世羅町大字下津田地区
- ・業務委託先: ー
- ・業務量: 0.10ha 駐車場1基
公衆用トイレ1基
- ・業務金額: 960,000円
- ・業務期間: 令和2年度～令和6年度

【活動の様子】



今後の展開

- ・引き続き、保全会が中心となり、保全活動や森林体験活動を実施していく。
- ・竹林が再び繁茂しないよう、地域住民等で除去を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・駐車場が無いことによる資機材の運搬の不便さが昨年までの課題だったが、駐車場整備により解決した。

【設置トイレ】



【整備後】



希少植物が自生する湿地周辺の山林の保全

事業名 特認事業(地域資源保全活用事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・本計画実施地は、国及び県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている、ヤチシャジンが自生している湿地を含む森林である。しかし、湿地近くの山林は、山林所有者の高齢化が進み手入れ不足となっている。そのため、これまで湿地周辺の保全活動が続けてきた「世羅の自然をまもる会」が主体となって景観の保全や水源涵養機能の回復を図るため、本事業に取り組むこととした。

取組の内容

- ・事業主体: 世羅の自然をまもる会
- ・実施場所: 世羅町大字小世良地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 0.35ha 駐車場1基
- ・業務金額: 1,440,000円
- ・業務期間: 令和3年度～令和6年度

【ヤチシャジン】



今後の展開

- ・引き続き世羅の自然をまもる会が主体となって、湿地周辺の森林整備や希少植物の保護活動を行う。
- ・湿地上流から下流にかけて一体的に整備していく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・湿地周辺の森林整備を行ったことにより、日光を遮る物がなくなり、希少植物の保全に繋げることができた。
- ・駐車場を設置し、利用者の利便性向上を図った。

【整備後】



土砂災害から地域を守る森林整備事例

事業名 特認事業(里山防災林整備事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・本事業地は、平成22年7月豪雨によって死者一名、負傷者1名、家屋の一部損壊が2棟という甚大な被害を受けた地区である。当該地は、林地荒廃(松枯れ)による倒木等により、本来の溪間と違う場所にも土砂が流出し、被害が拡大したことから、森林整備が必須である。そこで、里山防災林整備事業によって事業を実施する運びとなった。

今後の展開

・川尻下地区里山防災会で、連携していくことで、地域全体で防災についての理解を深める。

取組の内容

- ・事業主体:川尻下地区里山防災会
- ・実施場所:世羅町大字川尻地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量:2.83ha
- ・業務金額:4,530,000円
- ・業務期間:令和4年度～令和6年度

【整備前】



取組後の感想

【良かった点】

・松枯れによって荒れていた林内を整備したことによって、土砂災害の危険性を軽減できた。

【整備後】



生活道の安全対策のための森林整備事例

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・黒川地区では多くの危険木や支障木が存在しており、地元住民から整備の要望が多いことから事業に至った。整備の要望のあった箇所の中から団体によって優先度を判断し、優先度の高い箇所から順に、事業を実施する。令和6年度では、地区内に所在する中学校の通学路の整備を行った。

取組の内容

- ・事業主体:黒川地区検討部会(黒川自主防災会)
- ・実施場所:世羅町大字黒川地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量:1.01ha
- ・業務金額:4,800,000円
- ・業務期間:令和6年度

【合同検討部会の様子】



今後の展開

- ・引き続き黒川地区検討部会で、連携していくことで、要望の状況や整備箇所、施業方法話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・地区内で長年課題だった箇所の整備を行うことで、安全性を確保することができた。
- ・検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【整備前】



【整備後】



農地を守る鳥獣被害対策のための森林整備事例

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・青近地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているので、その効果を十分に発揮できていない。鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体: 青近地区検討部会(君影会)
- ・実施場所: 世羅町大字青近地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 0.59ha
- ・業務金額: 2,500,000円
- ・業務期間: 令和5年度～令和6年度

【合同検討部会の様子】



今後の展開

- ・引き続き青近地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【整備前】



【整備後】



農地を守る鳥獣被害対策のための森林整備事例

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・下津田地区では近年鳥獣被害が増加している。田畑の周囲に電気柵やメッシュ柵を設置する等対策をとっているが、有害鳥獣の隠れ場所になるような里山林に接しているため、その効果を十分に発揮できていない。また、サギのコロニーも形成されており、対策が必要との声が上がった。そこで、鳥獣被害対策の効果を最大限に発揮させるため、整備を行うこととなった。

取組の内容

- ・事業主体: 下津田地区検討部会(茶臼山保全会)
- ・実施場所: 世羅町大字下津田地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 0.68ha
- ・業務金額: 2,225,000円
- ・業務期間: 令和4年度～令和6年度

【合同検討部会の様子】



今後の展開

・引き続き下津田地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【整備前】



【整備後】



農地を守る鳥獣被害対策のための森林整備事例

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・重永地区では近年鳥獣被害が増加している。農地が山に囲まれた地形が続いており、見通しが悪い状況である。そこで、鳥獣被害対策のため、整備を行うこととなった。また、広島県森林保全課と協力して、有害鳥獣の現状を調査するため、林内にはカメラを設置し、検証も兼ねて行っていく。

取組の内容

- ・事業主体: 重永地区検討部会(せら富士屋)
- ・実施場所: 世羅町大字重永地区
- ・業務委託先: ー
- ・業務量: 1.64ha
- ・業務金額: 7,200,000円
- ・業務期間: 令和6年度

【合同検討部会の様子】



今後の展開

・引き続き重永地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・農地に近い立木の整備を行うことで、有害鳥獣が農地に近づきにくい環境を整えることができた。
- ・林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・検討部会を開催し、専門家等の話を聞いたことで、効果的な施業方法を話し合うことができた。

【整備前】



【整備後】



歴史的・文化的資源周辺の森林整備

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・事業実施区域は枯木八幡神社・野原八幡神社・観音寺広場周辺の森林である。現在まで観音寺広場は地域行事を実施する場として利用されている。しかし周辺の森林は、高齢化により荒れ続け放置されたままである。土砂災害危険区域に指定されている箇所もあるため森林の公益機能の維持増進を図る必要がある。そのため、津口森づくりの会が主体となって景観の保全や山地災害防止機能の指揮を図ることとなった。

取組の内容

- ・事業主体:津口森づくりの会
- ・実施場所:世羅町大字津口地区
- ・業務委託先:—
- ・業務量:0.27ha
- ・業務金額:4,000,000円
- ・業務期間:令和4年度～令和6年度

【草刈作業の様子】



今後の展開

・今後も津口森づくりの会が中心となって、野原八幡神社・枯木八幡神社・観音寺広場それぞれの箇所に近接している地域住民が集まり、寺や神社の維持管理と併せ、清掃活動等、森林保全活動を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

・野原八幡神社広場周辺の竹林整備を行ったことにより、景観の保全と神社へ迫っていた危険木を撤去することができた。また、見通しが良くなった。

【整備前】



【整備後】



希少生物を守る森林保全活動

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・瀬近地区は、チョウの中で最も絶滅が心配されているヒョウモンモドキの数少ない生息地の一つである。ヒョウモンモドキの生育のためには、キセルアザミやノアザミが必要不可欠である。しかし、長年の手入れ不足で山は荒れ、湧き水の質が落ち、その生育に不適切な状況になっている。そこで、森づくり事業を通じて、ヒョウモンモドキを中心とした生物多様性を取り戻す活動を行っていくことになった。

取組の内容

- ・事業主体: 東地区検討部会(東地区森づくりの会)
- ・実施場所: 世羅町大字青近字瀬近地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 1.19ha
- ・業務金額: 3,300,000円
- ・業務期間: 令和5年度～6年度

【設置した水路】



【地元住民による草刈り活動】



今後の展開

・引き続き東地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・アザミ自生地の整備ができた。
- ・水路を設置したことで、自生地に溜まる水の問題の解決に繋がった。

【整備前】



【整備後】



希少生物を守る森林保全活動

事業名 特認事業(里山林課題解決推進事業)

市町名 世羅町

取組のきっかけ・経緯

・黒淵地区は、チョウの中で最も絶滅が心配されているヒョウモンモドキの数少ない生息地の一つである。ヒョウモンモドキの生育のためには、キセルアザミやノアザミが必要不可欠である。しかし、長年の手入れ不足で山は荒れ、湧き水の質が落ち、その生育に不適切な状況になっている。そこで、森づくり事業を通じて、ヒョウモンモドキを中心とした生物多様性を取り戻す活動を行っていくこととなった。

取組の内容

- ・事業主体: 黒淵地区検討部会(黒淵農地と水を守る会)
- ・実施場所: 世羅町大字黒淵地区
- ・業務委託先: —
- ・業務量: 1.23ha
- ・業務金額: 3,300,000円
- ・業務期間: 令和5年度～6年度

地元住民による
草刈り活動



ノアザミの移植



今後の展開

- ・引き続き黒淵地区検討部会で、連携していくことで、被害の状況や効果的な施業方法を話し合い、効果的な対策を行っていく。

取組後の感想

【良かった点】

- ・枯損木が繁茂していた林内に光が差し込み見通しが良くなった。
- ・森林整備により、キセルアザミやノアザミの生育に適切な環境づくりを行うことができ、ヒョウモンモドキの繁殖にも期待できる。

【整備前】



【整備後】

